

## 令和4年度「取組と目標」に対する自己評価シート

介護保険事業計画に記載した「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価結果報告

第8期介護保険事業計画に記載の内容				R4年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標(事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
自立支援 介護予防 重度化防止	(現状)市職員などによる介護予防をテーマとした出前講座や講演会、また、認知症に係る出前講座を実施している。 (課題)参加者や出前講座依頼元の固定化。	出前講座や講演会による地域住民への啓発	・職員出前講座の実施 ・介護予防講演会の実施	職員出前講座の実施 7回 参加者 116人 介護予防講演会の開催 1回 参加者 91人	○	・コロナ禍のため、出前講座は当初依頼をうけていた講座のキャンセルがあったものの、介護予防講演会は、一定の参加者があり、アンケート結果からも好評であった。 ・今後も継続的に実施する。
自立支援 介護予防 重度化防止	(現状)各種健(検)診や通いの場などで高齢者が心身の状態を把握する場を開催している。 (課題)参加者の固定化及び参加者数の伸び悩み。	心身の状態を知る機会の提供	・介護予防に資する活動の場(元気アップ教室)での体力測定の実施 ・認知機能測定(頭の元気度チェック)の実施 ・体力測定会の実施	・介護予防に資する活動の場(元気アップ教室)での体力測定の実施 38回 参加者 448人 ・認知機能測定(頭の元気度チェック)の実施 12回 参加者 57人 ・体力測定会の実施 6回 参加者 112人	○	・頭の元気度チェックと体力測定会については、一定の参加者があった。 ・以上のことから、コロナ禍であっても一定の参加ニーズが見受けられることから、今後も継続的に実施する。
自立支援 介護予防 重度化防止	(現状)地域交流や生きがいがづくりの場として、介護予防・スポーツ講習会を定期的に開催している。 (課題)参加者の固定化、男性参加者が少ない。	介護予防・高齢者スポーツ講習会の開催	介護予防・高齢者スポーツ講習会の開催種目数及び実申込者数 3種目 77人	種目数 3種目 (気功、公式ワナゲ、グラウンド・ゴルフ) 実申込者数 64人	◎	・コロナ禍のため、参加者数が伸び悩んだものの、参加者からは「楽しかった」といった声があった。 ・広報やチラシ配布などを通じて参加者を募集し、引き続き3種目を実施。 ・参加者の固定化や男性参加者が少ないことが課題。新たな種目の導入を検討するなど創意工夫をしながら、引き続き開催予定。

<p>自立支援 介護予防 重度化防止</p>	<p>(現状)「交野市健康増進計画・食育推進計画」に基づき、各種検診の受診勧奨や生活習慣病の予防、地域ぐるみでの健康づくりの推進や食育の推進に取り組めます。 (課題) 検診受信者等のフォローとして生活習慣病予防のための健康教育等を行う必要がある。</p>	<p>交野市健康増進計画・食育推進計画の推進</p>	<p>(現状)「交野市健康増進計画・食育推進計画」に基づき、生活習慣病予防や地域ぐるみでの健康づくりの推進に取り組んでいる。 (課題) 参加者の固定化、男性参加者が少ない。</p>	<p>・令和3年度～令和4年度9月までは新型コロナウイルス感染症の影響により、集団検診を中止した。受診控えやセンター検診の中止により受診者数が減少し、受診率が低下した。また啓発の機会も減少し、十分な啓発ができなかった。</p>	<p>△</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診率向上に向けた啓発方法を検討していく必要がある。</li> <li>・医師会との連絡調整を密にし、医療機関からの検診受診勧奨等をすすめていく必要がある。</li> <li>・令和5年度よりがん検診の自己負担額を一律500円として受診率向上をねらう。センター検診の予約方法も予約システムにより日付指定で予約をとれるようにし受診体制の向上に努めた。</li> </ul>
<p>自立支援 介護予防 重度化防止</p>	<p>(現状)「元気アップ教室」「健康リーダー」など地域での住民等主体による新たな受け皿づくりに取り組み地域住民の体力の維持向上や物忘れ予防、閉じこもり予防や寝たきり予防につなげます。 (課題) 参加者の固定化、男性参加者が少ない。</p>	<p>通いの場の機能強化</p>	<p>通いの場(元気アップ教室)の参加者数及び拠点数</p>	<p>通いの場(元気アップ教室) 実参加者数 889人 延べ参加者数 12,001人 拠点数 45か所</p>	<p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通いの場については、コロナ禍のため休止している教室もあったが、可能な限り理学療法士等の職員を派遣し、感染予防に配慮した運動方法の指導等を実施したことで、コロナ禍に応じた実施方法による再開の兆しが見られることから、今後も継続的に実施する。</li> </ul>
<p>自立支援 介護予防 重度化防止</p>	<p>(現状)本市オリジナル体操「元気アップ体操」など介護予防に資する住民主体の活動が市内各地で開催 (課題) 参加者の固定化、男性参加者が少ない</p>	<p>通いの場の機能強化</p>	<p>通いの場(元気アップ協室)参加率(参加実人数/高齢者人口) 5.7%</p>	<p>通いの場(元気アップ協室)参加率 4.07% 街かどデイハウス支援事業 実施個所:2か所 延利用人数:1,463人 活動日数:202日</p>	<p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通いの場については、コロナ禍のため休止している教室もあったが、可能な限り理学療法士等の職員を派遣し、感染予防に配慮した運動方法の指導等を実施したことで、再開の兆しが見られた。一方、運動等に関心のない人や通うことが難しい方に対応するべく、オンラインによる動画配信も実施するなど、フレイル予防や参加者の拡大につなげる必要がある。</li> <li>・今後も継続的に実施する。</li> </ul>

<p>自立支援 介護予防 重度化防止</p>	<p>(現状)地域住民主体の各種集いの場を市民へ周知し、参加してもらうことを目的とした、介護予防活動紹介集を作成している。 (課題)定期的な見直しが必要。</p>	<p>通いの場の機能強化</p>	<p>「あなたの街の介護予防」掲載の通いの場所数 計112か所</p>	<p>「あなたの街の介護予防」掲載の通いの場所数 計132か所</p>	<p>◎</p>	<p>・令和4年度に改訂版を作成した。 ・介護予防に資する活動を行っていないながらも、掲載を希望しないグループもあることから、引き続き掲載を依頼し、市民に提供できる情報収集に努める。</p>
<p>自立支援 介護予防 重度化防止</p>	<p>(現状)関係団体との連携の元、住民主体で運営する通いの場やサロン団体等にリハビリテーション専門職を派遣し、運動指導や講話を実施。 (課題)リハビリテーション専門職の確保が困難</p>	<p>地域リハビリテーション活動支援事業の実施</p>	<p>・リハビリテーション専門職による、生活課題に関するアドバイス事業の実施 ・元気アップ教室等に理学療法士や介護予防運動指導員等を派遣し、運動指導や講話を実施</p>	<p>・アドバイス事業に従事するリハビリテーション専門職の雇用ができなかったため、代替として、一般介護予防事業として、リハビリテーション専門職による生活課題解消を目的とした「訪問型元気アップ大作戦」を委託で開催 参加者 39人  ・元気アップ教室へ定期的に理学療法士や介護予防運動指導員等を派遣し、指導等を実施 指導回数 242回</p>	<p>○</p>	<p>・アドバイス事業については、代替方法で一定の利用者があったことから、今後は「訪問型元気アップ大作戦」に完全移行して実施する。 ・通いの場については、コロナ禍のため休止している教室もあったが、可能な限り理学療法士等の職員を派遣し、感染予防に配慮した運動方法の指導等を実施したことで、コロナ禍に応じた実施方法による再開の兆しが見られることから、専門職による指導等を今後も継続的に実施する。</p>
<p>自立支援 介護予防 重度化防止</p>	<p>(現状)高齢者の保健事業と介護予防事業を一体的に実施できるよう、庁内部局間による事業検討を実施。 (課題)これまでも元気アップ体操等で一定のフレイル対策を行っていることから、内容の検討が必要。</p>	<p>保健事業と一体的に行う介護予防の実施</p>	<p>・保健事業を担当する医療保険課と、介護予防事業の内容や医療保険被保険者の傾向などを確認した上で、令和4年度からの事業開始に向けて、検討会を実施</p>	<p>・検討の結果、低栄養から来るフレイル対策が必要となり、令和4年度から、元気アップ体操教室に管理栄養士が訪問し、運動機能チェックと共に、食生活チェックとミニ講話を実施すると共に、低栄養と判定された人に対して、個別指導等を実施。</p>	<p>◎</p>	<p>・庁内連携により、低栄養を通じたフレイル予防という支援方針が見いだされ、既存の運動指導、口腔ケアと併せて、介護予防の拡充につながった。 ・フレイル対策について継続して行い、啓発していく。</p>
<p>介護給付等費用の適正化</p>	<p>(現状)介護支援専門員を対象に、自立支援や重度化防止に資するケアプラン作成が行えているが専門団体によるチェックを実施している。 (課題)一部、利用者の評価や目標設定、援助方針に至るプロセスなどが不明瞭なケアプランが見られる。</p>	<p>ケアプランチェックの実施</p>	<p>ケアプランチェック対象プラン件数 40件</p>	<p>ケアプランチェック件数 34件</p>	<p>◎</p>	<p>・チェック結果を各介護支援専門員にフィードバックすると共に、研修会を開催することで、介護支援専門員の質的向上に取り組む必要がある。 ・今後も継続的に実施する。</p>

<p>介護給付等費用の適正化</p>	<p>(現状)介護支援専門員を対象に、自立支援や重度化防止に資するケアプラン作成を支援するため、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、管理栄養士、地域包括支援センターをアドバイザーとした、ケアプランの検討を実施している。 (課題)一部、利用者の評価や目標設定、援助方針に至るプロセスなどが不明瞭なケアプランが見られる。</p>	<p>自立応援会議によるケアプラン内容の検討</p>	<p>自立応援会議検討プラン件数 360件</p>	<p>自立応援会議検討プラン件数 99件</p>	<p>×</p>	<p>・昨年、介護支援員に行ったアンケートの結果とアドバイザーの意見を踏まえ実施方法の見直しを行った。従来新規ケースを持つとケアプランの検討を行っていたが、新方法では介護支援員1名につき2件のケアプランの検討となり検討件数が絞られたため減少した。 ・ケアプランの検討が2件未満の場合は会議を開催していなかったが、1件でも開催するように変更し、今後も継続的に実施する。</p>
<p>介護給付等費用の適正化</p>	<p>(現状)介護認定審査会における適正な審査判定を行うため、年に1回認定審査会委員を対象に研修会を実施している。 (課題)適正な審査会の議事・審査を引き続き維持する必要がある。</p>	<p>公平・校正で適切な要介護認定の実施</p>	<p>「認定審査会委員研修会」の開催回数 1回</p>	<p>「認定審査会委員研修会」の開催回数 1回</p>	<p>◎</p>	<p>・研修会において、審査会委員間でグループワークの実施による意見の共有。合議体ごとの分析をし、偏りの解消を図る。今後も継続的に実施する。</p>
<p>介護給付等費用の適正化</p>	<p>(現状)要介護認定を受けた、介護支援専門員が不在の住宅改修希望者に対し、現地確認及び理由書の作成、見積書の点検等を実施している。 (課題)改修事業者によって、制度の理解に乏しく、本人に見合わない改修内容が提案されることがある。</p>	<p>住宅改修等の点検</p>	<p>住宅改修事前現地調査件数 24件</p>	<p>住宅改修事前現地調査件数 8件</p>	<p>△</p>	<p>・職員が現地確認に行くことで、適正な改修につなげられた事例があったことから、今後も継続的に実施する。</p>
<p>介護給付等費用の適正化</p>	<p>(現状)福祉用具購入時の支給申請書類の内容を精査し、利用者等に確認を実施し、利用者等に助言等を行う。 (課題)販売事業者等による、必要以上に高額な用具の提案、比較可能な用具の提案数や使用方法に関するサポートが乏しいことなどが懸念される。</p>	<p>福祉用具購入時の調査</p>	<p>福祉用具購入時調査件数 36件</p>	<p>福祉用具購入時調査件数 45件</p>	<p>◎</p>	<p>・コロナ禍であったため電話や書面でのアンケート調査を行い用具の提案が適正であったか確認できた。 今後は、現地確認も行いながら継続的に実施する。</p>
<p>介護給付等費用の適正化</p>	<p>(現状)適切なサービス利用と請求の促進を目的に、介護報酬の請求や給付状況を通知している。 (課題)送付の希望申請があった人に送付しているが、対象者が限定されている。</p>	<p>介護給付費の通知</p>	<p>介護給付費等通知件数 415件</p>	<p>介護給付費等通知件数359件</p>	<p>◎</p>	<p>・広報やホームページで介護給付費通知制度の活用を周知し、利用促進に努める必要がある。 ・今後も継続的に実施する。</p>

<p>介護給付等費用の適正化</p>	<p>(現状)大阪府国民健康保険団体連合会に委託し、国保連システムから出力される「医療情報との突合リスト」を用いて、入院情報と介護保険給付情報を突合しサービスの整合性の点検を実施している。 (課題)国保連合会が点検を実施しない独自点検帳票(未審査一覧)について十分に点検が行えていない。</p>	<p>医療情報との突合</p>	<p>医療情報との突合実施件数 60件</p>	<p>医療情報との突合実施件数 99件 (令和3年度)</p>	<p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護事業者に対し、継続的に適切な給付管理の実施を促すように努める。</li> <li>・今後も引き続き大阪府国民健康保険団体連合会に委託して実施する。</li> </ul>
<p>介護給付等費用の適正化</p>	<p>(現状)大阪府国民健康保険団体連合会に委託し、提供されたサービスの整合性や算定回数 の点検を実施している。 (課題)国保連合会が点検を実施しない独自点検帳票(未審査一覧)について十分に点検が行えていない。</p>	<p>縦覧点検</p>	<p>縦覧点検実施件数 700件</p>	<p>縦覧点検実施件数 774件 (令和3年度)</p>	<p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年1月より順次独自点検を開始しており、今後点検対象の帳票を増やしていく予定だが、効率的な点検方法の検討が必要。</li> <li>・今後も引き続き大阪府国民健康保険団体連合会に委託して実施する。</li> </ul>